第6章　施策の実施計画

【（7）「生涯にわたって学び続ける」環境づくり】

施策（取組）			施策の概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
家庭教育支援の充実	1	家庭教育力の向上	保護者を対象に家庭教育講演 中学校入学式 就学時検診 保育園 幼稚園	家庭でのしつけや子どもとの関わり方に自信を持てない親、子どもの養育に無関心な親、精神面で未熟な親が増えていることが指摘されてる。いずれ社会へ巣立つ子どもに必要な力を授けることは保護者としての重要な役割であり、保護者が家族の一員、地域の一員として心にゆとりを持ち、子どもの考え方や意見に耳を傾け、理解することで信頼関係を築くことが重要となってる。	発達時期に応じた家庭教育について講演会を行い、親同士の学びの場、交流の場、情報交換の場を提供することができた。	家庭教育における学びの場、家庭同士の繋がりの場を提供することで、家庭を取り巻く地域環境が醸成され、家庭教育力が向上し、子ども達が健全に育成されている。
			家庭教育体制づくりの支援として母親クラブ、PTA活動等、社会教育団体への助成及び支援等		保護者同士のつながりの場、子育ての相談の場、憩いの場として、気軽に参加することができ、つながりの輪ができるよう、活動の援助及び支援を行う事ができた。	
多様な学習機会の提供	2	タイムカプセル事業	２０歳の自分あてへのメッセージを書き、タイムカプセルへ収納し、20歳の成人式に返還	現在は代表者3名程度が代表としてメッセージを朗読しているが、時間的に余裕があるため、人数を増やすなど事業の充実に努めたい。	学校と事前からの打合せを行い、適正に事業を行うことができた。	夢や希望が満ち溢れる時期に、未来の自分を想像し、手紙を書くことで、それに向けて努力する出発点となる事業になっている。
	3	新成人の集い事業	式典及び越知吹奏楽団演奏・タイムカプセルを開け、個人に色紙を返還。	成人者数は年々少なくなっているが、沢山の人たちに支えられ成人できたことを感謝できる式典を継続して行く必要がある。	成人式を契機に、成人としての自覚や意識を持たせ、支えてくれた人への感謝の意を忘れず、社会の一員として責任のある行動をすることの必要性を伝え、大人としての意識を高める式典ができた。	生まれ育った越知町を誇りに思い、社会の一員として自ら考え行動することができ、地域社会に貢献できる人材となっている。
	4	人権教育の学習	小学生から一般住民を対象に、自分の大切さとともに、他人の大切さも認める事ができ、様々な場面で考え、行動ができるよう学習会を実施	小学校や中学校と連携して講演会を開催したが、まだまだ町民（一般）の聴講者が少なく、充分な人権啓発が行えていない。	多様化する現代社会に対応した人権問題について講演会等を行い、人権についての理解、啓発を行う事ができた。	人権教育の講演会を開催し、事業を遂行することで、差別やいじめの無い、人権への意識等の変化が見られている。
	5	高齢者教室	いきいき長生き学園の開催 年４回～５回 高齢者が第二の人生を安心・安全に豊かな心で生活していけるような学びを提供	高齢者になっても学びつづけることや参加者との交流により生きがいづくりの場を提供できるよう実施する。	生きがいづくりや健康づくり、介護予防など高齢者ならではの学習とともに、参加者とのレクレーションや研修旅行をとおして、高齢期の生活を明るく豊かなにする事業ができた。	高齢期の生活が明るく豊かなものとなり、高齢者福祉の増進が図られている。
	6	世代を超えた交流事業	新春囲碁将棋大会の開催 子どもから高齢者まで、趣味を通じてふれあうことで、世代を超えた交流を提供	中学生棋士の活躍により、小中学生の参加が多くなり、世代を超えた対局も行え、良い交流の場となっている。	囲碁愛好者、将棋愛好者が親睦と交流を深める事を目的に、日頃の成果を発揮する場所として事業を実施する事ができた。	子どもから高齢者まで世代を超えた交流の場として、愛好者が集う事業となっている。
	7	滝上町児童交流事業	両町の児童が互いの町を訪問し、自然体験や文化体験を行い交流を行い見聞を深める 7月下旬　滝上町児童来町 2月上旬　越知町児童滝上町へ	それぞれの町の自然を体験することにより、お互いの文化・生活に対する理解や協調性を育むことができている。スノーピークキャンプ場を活用した自然体験交流も取り入れていきたいと考える。	交流をとおして、異なる地域の自然や文化を体験することで、お互いの文化・生活に対する理解や協調性を育むことができると共に、ふるさと越知町の良さを再認識することができた。	児童交流をとおして、北海道滝上町との地域間交流が活発に行われている。また郷土の良さを多面的に実感できている。
	8	外国語教室	国際交流協会が主催し、国際交流員（CIR）、外国語指導助手（ALT）による韓国語、英語の教室をレベルに合わせて実施。	英会話教室：20名 初級、中級、上級 韓国語教室：39名 スーパー初級、初級、中級、上級	教室を通じて、日常生活や語学力の向上、国際理解を深めることができた。	教室を通じて、異文化を知り、国際理解が深まっている。
	9	笑いで元気なまちづくり事業	高知県に住みます芸人の淀家萬月氏による、小学校での落語教室や落語クラブ、高齢者落語教室、おち町の小学生お笑いNO１を決める「おち１グランプリ」など笑いを通した生きがいづくりを提供	落語は人前で話す事を行うため、表現力、思考力、言語活用能力の育成に繋がっている。また、笑い（笑顔）は、さまざまな健康効果があり、生きがいづくりにも寄与している。	落語教室や落語クラブを通して、事業の集大成である「おち１グランプリ」にむけて、努力する子ども達の姿が見られた。	子ども達のコミュニケーション能力や自己肯定感が高まりつつある。

第6章　施策の実施計画

【（7）「生涯にわたって学び続ける」環境づくり】

施策（取組）			施策の概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
地域コミュニティづくりの推進	10	公民館活動の充実	公民館長・主事会の開催 地域課題の解決に向け、研修会への参加	地域に応じた活動はあるものの、地域課題の解決に向けた取組については十分な取り組みができていない公民館が大半である。 今後、過疎化・高齢化が一段と進み、地域のつながりが希薄化する今日において、公民館が果たすべき役割はますます大きくなると考えられる。 中央公民館が軸となり、地区公民館を支援・援助することで活動の活性化を図る必要がある。	館長・主事会の開催、県公民館研修会への参加により、公民館が主体となり地域の課題解決にむけ取組むことができた。	少子化、過疎化が進む中でも公民館が拠点となって、現状に合った公民館活動が行われている。
			地区公民館活動事が活発に行えるよう事業の支援を行う。		地域の活動が低迷しないよう、公民館が主体となって事業が行えるよう支援を行う事ができた。	
	11	地域教育推進協議会の組織強化	地域教育推進協議会の担い手育成	メンバーの高齢化が顕著であり、次世代の担い手育成が急務である。	地域推進協議会、運営委員会を開催し、学校・家庭・地域が連携を図り、全町ぐるみの教育の推進に取り組むために、事業の計画立案から事業実施まで行う事ができた。	子どもを健やかに育てていくためには、地域との交流を深め対話する機会が大切です。 地域の大人が積極的に家庭や子ども達と関わり、「越知の子は越知で育てる」といった気持ちを持ち、家庭や子どもを支え見守ることで、親の不安軽減や子どもの社会的成長につながり、地域の教育力が向上している。
	12	地域教育力の向上	地域教育推進協議会による地域活動の充実。 あいさつ運動、仁淀川で遊ぼう大会、凧あげ大会、地域行事への参加、コミュニティースクール事業への協力など。	各種事業や地域イベントへの参加が鈍い傾向にある。行事等はマンネリ気味であるが評価は得ており、現状維持・拡充を行わなければならない。	仁淀川で遊ぼう大会や凧あげ大会など、親子で参加できる事業の実施や地域行事への参加など、地域の大人が積極的に家庭や子ども達と関わり、地域の教育力を向上することができた。	
読書活動の推進	13	本の森図書館の充実	利用者ニーズに対応した図書の整備	役立つ情報が得られるように、新刊の導入や専門書、情報、資料の充実に努める。	H29実績　　総数 ／ 子ども 利用者数：9,300 ／ 4,000 貸出人数：4,600 ／ 1,500 貸出冊数：16,900 ／ 5,500 リクエストへの早急な対応	利用者ニーズに対応した書籍整備ができており、利用者数、貸出冊数も増加するなど読書活動が定着している。
			いつでも気軽に入れる、居心地の良い施設・空間設備及びイベント等の開催による図書館の利用促進	図書の充実だけでなく施設の空間整備にも配慮し、居心地のよい空間整備、利用者とのコミュニケーションも心がけている。子ども向けイベント、大人向けイベントの実施。	地域の情報拠点施設として、近隣地域の各種情報の発信、地域の暮らしに役立つ情報や資料の提供を実施、また、気軽に入れ居心地の良い空間整備、イベント等による図書館の利用促進について取り組む事ができた。	町内の各種情報の発信、各種イベントの開催など、図書の貸出しのみならず、地域の暮らしに役立つ情報が提供され、多くの人が図書館を利用している。
			専門性の向上のため、職員研修を充実させ、資質の向上に努める	県立図書館が開催する図書館職員研修へ参加することで専門性の向上に努める。	図書館職員研修会へ参加し、職員の資質を向上することができた。	研修に参加することで、基礎的な事や図書館に対する利用者のニーズなどを学ぶ事ができている。
	14	発達時期に応じた読書活動の推進	ブックスタート事業、セカンドブック事業、サードブック事業の発達段階に応じた読書活動支援。 読書活動推進員による保育園、幼稚園での読み聞かせ。	ブックスタート贈呈時に、保護者より本のプレゼントを楽しみにしていた事や、既に家庭で読み聞かせを実施している等の話も伺え、早期からの読み聞かせの重要性や楽しさが周知されつつある。	読書活動推進員による保育園、幼稚園での読み聞かせ、ブックスタート事業、セカンドブック事業、サードブック事業など、発達段階に応じ、本に親しむ事ができる環境を提供する事ができた。	家庭、学校図書館、読書活動推進員、読書ボランティア、その他関係機関等と連携し、子ども達が読書習慣を身につけている。
	15	学校図書館との連携	小・中学校の図書担当教諭及び図書支援員との定期的な連絡会。	図書資料や図書情報を共有する事ができ、学校図書館では対応できない図書資料等の提供などを行う事が出来ている。	学校図書館と連携を図り、学習資料の提供や選書会の支援など、子ども達が沢山の本と出会える機会を提供できた。	

第6章　施策の実施計画

【（7）「生涯にわたって学び続ける」環境づくり】

施策（取組）			施策の概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
健康づくりと生涯スポーツの推進	16	総合型スポーツクラブの活性化	町広報紙での宣伝活動や、運営委員会、各種大会において現状報告を行うことで理解を仰ぎ活性化を図る。	子どもから、高齢者までスポーツ人口の減少は否めず、各種大会を開催するが、年々参加者数の減少傾向にある。	スポーツクラブ総会や運営委員会、スポーツ大会などによりおちスポーツクラブ加入のメリットを説明。また、活動内容を町広報紙にて宣伝報告ができた。	スポーツクラブの現状を説明、報告し、スポーツクラブ加入のメリットを認識してもらい、加入者増に繋げる事ができている。
	17	スポーツ大会の開催	町民スポーツ祭、スポーツクラブカップ、スポーツ推進委員長杯の町内3大会を軸として、少年団体県大会である、少年野球、柔道、空手の各大会を開催。	全大会ともに参加者数が減少傾向にある。少年団体県大会（野球・柔道・空手）については、部員数の減少により、大会運営自体が危ぶまれる状況にある。	町内大会は、参加資格を緩めるなどして、参加者拡充を図り、各少年団体県大会においては、ＯＢや町内外を問わず他チームに協力要請を行い、協力し合ってスムーズな運営ができた。	町内大会においては、ニーズに応じた種目の追加や大会運営を行い参加者数を確保することができており、県大会においては、各主団体を中心に運営体制を見直し、他団体からの協力を得る運営できている。
	18	地域交流を目指したスポーツの推進	スポーツ少年団体交流会など競技内容は違えど、運動あそびを通じ交流を図り、互いに新たな発見収穫に繋がるよう促す。	スポーツジャンルを問わず全団体が参加しているが、団体による人数差が激しい。中学運動部人員確保のためにも最重要課題といえる。	スポーツジャンルの垣根を越えて　　学校生活とは違ったスポーツや友達の一面を、互いに新しく気づき、発見することを促した。	学校生活において見かける友だちとは違った姿を見て、互いに取り組んでいる姿勢を学べ、また縦のつながりを感じ学ぶ様子がみられている。
	19	高知FDによるスポーツの振興	野球以外のスポーツでも講師を呼び教室を開催。野球事業としては、交流試合や野球教室を実施。また、小学校では、陸上記録会などイベント前に体育指導を実施。	小学生は体力の向上が見られ、その要因の一つとして、高知ＦＤの体育指導があげられる。また、野球に関らず、バレーなどの講演会を行いスポーツ人口の拡充に貢献している。	プロスポーツ選手の身体能力や取り組む姿勢を身近に感じることで、日々の健康管理や努力の大切さなどに気づく事ができた。	体力的な向上だけでなく、効率の良い体の動かし方、主体性をもって動くことの大切さに触れ、スポーツを通じて、自分たちで考えて動くことができている。
	20	町民総合運動場の整備	町民総合運動場の整備や修繕	昭和56年に建設され、耐用年数も過ぎており、劣化による漏水など修繕箇所が年々増加傾向にある。今後は、中長期的に修繕計画等を検討することが必要と考えられる。	施設利用者の要望に耳を傾け、危険個所の修繕や改良を行い、利用者ニーズに対応する事ができた。	施設利用者が安心・安全に施設を利用できており、スポーツ活動が活性化できている。
文化・芸術活動の推進	21	文化推進協議会の組織強化	サークル数：１９ 延べ会員数：１７６名 四国銀行ロビー展への作品展示、サークル紹介等を掲示。	サークル会員の高齢化が進む中、新規加入者も少なく、サークル活動の休止等が多くなっている。積極的にサークル紹介を行い、新規会員の獲得、新規サークルの活動ができるよう努めていく必要がある。	サークル数：１９ 延べ会員数：１７６名 積極的にサークルの紹介や活動状況について発信し、新規会員の獲得に向けて活動する事ができた。	新規会員の増加や新規サークルの活動が始まり、活発な活動ができ、住民が芸術や文化に触れる機会が創出できている。
	22	文化・芸能活動の推進	11月初旬に文化祭の実施。 学校関係、病院関係、一般にも呼びかけ、絵画、手芸、書道等の作品展示を行う。期間中はサークル会員等による芸能発表会も実施。	展示作品が年々減少傾向にある。多くの方に出展していただく様、声掛けや広報等により呼びかけを行う必要がある。芸能発表についてもサークル以外の参加者を募り、発表の場を提供していきたい。	多くの方に、芸術や文化に触れる機会を創出し、町民の芸術や文化に対する興味や理解を促進することができた。	
郷土愛の育み	23	文化財の調査と保護の推進	町指定文化財の指定 町指定文化財のパトロール	町文化財保護審議会により文化財の調査及び保護について実施。	指定文化財のパトロールの実施及び指定外文化財の調査を行いなど保護の推進ができた	文化財の調査と保護が推進されている。
	24	文化財の活用及び伝承・継承の推進	文化財保護審議会、越知史談会等による活用、伝承等についての学習	文化財保護審議会、越知史談会等により活用、伝承等について学習が行われているが、後継者が育成されていない。	長い歴史の中で守られてきた文化遺産を次世代に継承していく活動ができた。	先人達が継承してきた、文化遺産を次世代に継承できている。

第6章　施策の実施計画

【（7）「生涯にわたって学び続ける」環境づくり】

施策（取組）			施策の概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
横倉山自然の森博物館の魅力強化と活用	25	横倉山自然の森博物館の魅力強化及び活用促進	来館者数8,000人を目標に掲げ、各季節に企画展の開催、夏休みに子ども工作教室、フォレストクラブと連携し、ヒメボタル観察会、植物観察会などを実施。	企画展時には来館者は増えるが、内容により来館者にばらつきがある。また、企画展を開催していない時の来館者が少ない。 開館20年を経過し、常設展示も古く説明文については、現在の調査結果にそぐわない物も見られるため、早急に対応を行う必要がある。 みらい科学館との連携により、小中学校の学習の場として活用を推進していきたい。また、ネイチャーガイド業者との連携により、自然体験型観光として博物館を拠点とし、横倉山の活用を考えていく必要がある。	来館者数8,000人を達成するため、企画展や各種イベントの企画を的確に行い、事業終了後に事業評価を行い、以降の事業に反映させる事ができた。	横倉山に対する総合的な理解を深めることにより、人と自然とのよりよい共存関係を築いていくとともに、自然史に関する資料を収集保管、展示等を行い住民の知識及び教養の向上と学術、文化の発展に寄与する事ができている。
			自然体験型観光に合わせ、スノーピーク等との連携を強化し、横倉山、仁淀川など自然の魅力を伝えていく。		関係機関と連携し、横倉山や仁淀川など豊かな資源を活用した事業を行い、子ども達を含め多くの住民にふるさと越知町の魅力について情報を提供することができた。	
			高知みらい科学館との連携			